

彙 報

会 長 庄垣内 正 弘

2005 年度第 2 回常任委員会

日 時：2005 年 9 月 17 日（土）14:00～17:00

場 所：京都大学文学部小会議室

出席者：庄垣内正弘（会長）、佐藤昭裕（事務局長）、上山あゆみ、熊本 裕、
中川 裕、日比谷潤子

オブザーバー：吉田和彦（編集委員長）、柘植洋一（大会運営委員長）、森 若葉
（事務局長補佐）

[報告事項]

（1） 各種委員会からの報告

- 編集委員会（吉田和彦編集委員長）

『言語研究』第 128 号は現在組版中である。また、2005 年度第 1 回委員会の席上、『言語研究』執筆要項中の参照文献著者の表記法について要望が出たが、他の必要な改訂と併せて、編集委員会としての原案を作ったので、常任委員会の了解を求めたい。[審議事項 その他 参照]

- 大会運営委員会（柘植洋一大会運営委員長）

9 月 11 日に大会運営委員会を行い、第 131 回大会のプログラム（案）を作成した。発表件数が増え、全部で 9 会場となった。最近の応募件数の増加に対応し、査読をより精確かつ効率的に行うために、今後、研究発表応募に際してキーワードを付けて貰うことを提案したい。[審議事項 その他 参照]

- 広報委員会（上山あゆみ広報委員長）

8 月から 9 月にかけてホームページのリニューアル作業を行い、9 月上旬に完成した。

（2） その他

- 機関別認証評価に係わる専門委員の選考結果について

標記の件について大学評価・学位授与機構より連絡があり、2005 年 4 月に推薦した 4 名の候補者について（『言語研究』第 128 号「彙報」参照）、平成 17 年度実施分の委員としては選考が見送られたとの通知があった。

・第133回大会（2006年度秋季大会）

札幌学院大学に依頼し、開催を引き受ける旨回答を得たことが報告された。

[審議事項]

(1) 第131回大会（2005年度秋季大会）について

大会運営委員会作成のプログラム案を承認した。また、東広島市より150,000円の助成金を得ることとなり、ポスターとプログラムに「後援：東広島市」の表示をいれることを決めた。また、大会に合わせて行われる広島大学企画のサテライト・ワークショップの案内をプログラムに同封することを決めた。また、今回大会プログラムの頁数が増えて厚くなったことに関連して、今後は、従来の長形3号（定形）に替えて角二封筒を用い、折らずにプログラムを送ることが提案され、了承された。

(2) 第132回大会（2006年度春季大会）について

6月17日（土）・18日（日）に東京大学駒場キャンパスで開催すること、大会実行委員長を坂原茂氏に依頼することが了承された。

(3) 危機言語シンポジウムについて

「危機言語」小委員会より今年度にシンポジウムを開きたいという要望があった。具体的計画はまだ未定とのことであるが、常任委員会として予算の上限について審議し、現在ある危機言語プロジェクト積立金110万円のうち、2004年度分として積み立てた40万円を除く70万円の範囲で開催して貰うことを決めた。

(4) 個人情報保護法施行に係わる言語学会の対応について

個人情報の保護に関する法律の施行に対応して、必要な規定等を整備する件について、2005年度第1回委員会に提案して継続審議になった、1)「個人情報保護に関する遵守事項確認書（案）」、2)「日本言語学会個人情報取扱規定（案）」、3)「日本言語学会における個人情報の取扱方針について（案）」の文言を再検討し、第2回委員会に再提案するための常任委員会案を作成した。

(5) 次期役員選挙について

次期役員選挙の日程について検討し、過去の例にならって、12月下旬選挙人名簿発送、1月上旬異議申し立て締め切り・選挙人名簿確定、1月下旬投票用紙発送、2月中旬投票締切、2月下旬開票、という日程で行うことを決めた。また名簿については1月の投票用紙発送と同時に送ることになった。

(6) 名簿作成について

本年度作成する「会員名簿」に関して、個人情報の掲載はそれぞれの会

員本人の意思を最大限尊重した形で行うことを確認した。また名簿作成の具体的な手順を検討した。

- (7) 大会実行委員長、大会実行委員に関する規定について
2005年度第1回委員会に提出した標記の規定について、常任委員会原案の「会場校」という用語の使用について異論が出たが、検討の結果、研究所等もすべてこの用語に含まれるという解釈で、再度提案することが諮られ、了承された。
- (8) 『言語研究』の電子ジャーナル版について
吉田和彦編集委員長により『言語研究』に応募・掲載される論文の質を高めるために電子ジャーナル化による海外への情報発信機能の強化の必要性が示された。また上山あゆみ広報委員長より、選択肢としてJ-STAGE(科学技術情報発信・流通総合システム)使用とCiNii(国立情報学研究所論文情報ナビゲータ)使用の二つの可能性があること、前者は無料公開が原則で海外への発信に向いているが自然科学系の学会を主たる対象としていること、後者は人文系学会も多く加盟しており、きめ細かい課金が可能であるが、海外発信の能力は十分でないことが説明された。審議の結果、次の委員会で、海外への情報発信を目的として『言語研究』の電子ジャーナル化の実現を次期執行部に強く勧める、という決議を行うよう提案することが決められた。
- (9) その他
- ・編集委員会より、2005年度第1回委員会の席上で要望の出た、参照文献著者名の引用方法の改訂を含む、『言語研究』執筆要項改訂の原案が示され、審議の結果了承された。著者名については、「必要に応じて著者名をフルネームで記してもよい」という文言を追加することになった。以上の変更については委員会の承認は不要であり、本常任委員会の決定を最終決定とすることを確認した。
 - ・大会運営委員会より、大会研究発表の応募件数増加に伴い、査読をより精確かつ効率的に行うために、今後、応募に際して「対象言語名、分野・方法、その他」合計3つのキーワードを付けて貰うようにしたい、という提案があり、審議の結果、これを了承した。各種発表規定は改定しないが、プログラムの応募希望についての欄に記すなどして周知を図ることとなった。

2005年度第2回委員会

日 時：2005年11月19日(土) 10:30～13:30

場 所：広島大学(東広島キャンパス)学生会館1階レストラン「ラ・ボエーム」

出席者：庄垣内正弘（会長）、佐藤昭裕（事務局長）、上山あゆみ、上野善道、
 大津由紀雄、荻野綱男、生越直樹、加藤重広、北原久嗣、久保智之、
 郡司隆男、斎藤 衛、坂原 茂、坂本比奈子、清水克正、高永 茂、
 田窪行則、田村すゞ子、柘植洋一、辻 星児、津曲敏郎、長嶋善郎、
 西光義弘、丹羽一彌、日比谷潤子、藤本幸夫、益岡隆志、松森晶子、
 吉田和彦（以上 29 名）

委任状：38 名

オブザーバー：井上和子（顧問）、梶 茂樹（会計監査委員）、町 博光（大会
 実行委員長）、森 若葉（事務局長補佐）

議事に先立ち、大会実行委員長の町博光氏より挨拶があった。また会長より東
 広島市の後援を受け、助成金 15 万円を得たことについて、報告があり、東広
 島市と大会実行委員長に謝意が表された。

[報告事項]

- (1) 第 132 回大会（2006 年度春季大会）について
 2006 年 6 月 17 日（土）・18 日（日）に東京大学駒場キャンパスで開催
 する。大会実行委員長は坂原茂氏に依頼する。
- (2) 第 2 回常任委員会について
 2005 年 9 月 17 日（土）に本年度第 2 回の常任委員会を行った。
- (3) 各種委員会からの報告
 - 編集委員会（吉田和彦委員長）
 『言語研究』第 128 号は現在校正中で 12 月に発行予定である。第 129 号
 は現在編集集中である。また執筆要項を一部改訂した。
 - 大会運営委員会（柘植洋一委員長）
 第 131 回大会について、口頭発表は 94 件中 52 件（採択率 55%）、ポス
 ター発表は 5 件中 4 件、ワークショップは 2 件中 2 件が採択になった。
 また次回より、研究発表の応募に際して、キーワード 3 つを記して貰う
 ことになった。
 - 広報委員会（上山あゆみ委員長）
 9 月中旬にホームページのリニューアルを行った。
 - 「危機言語」小委員会（坂本比奈子委員）
 2005 年度第 2 回の小委員会を昨 18 日に行った。来年 2 月に一般向けに
 公開シンポジウムを行いたい。また、来年度は、春にワークショップ、
 秋にポスター展示を行いたい。小委員会委員の任期が終了するので委員
 の交代を行う予定である。

- 夏期講座小委員会（荻野綱男小委員長）
2006年8月21日（月）～26日（土）に東京大学駒場キャンパスで開催予定の夏期講座2006の詳細を検討し、12人の講師を決定した。また予算計画を立てた。
- (4) 日本学術会議等の報告
 - 第19期学術会議の報告
東洋学研連（崎山理氏（代理 坂本比奈子氏））
学術会議の組織改革により本年9月末で研連が解散したが、研連メンバーにより、来年度の特定期域研究の申請をすることになった。
- (5) 会員名簿作成について
本年度は会員名簿改訂の年に当たるので、その作業を開始した。10月14日に調査用紙を発送し、11月11日の締切までに1000通ほどの回答があった。なお、今回発送の調査用紙は、2005年度第1回委員会に提案された、会員名簿への個人情報掲載に関する「同意書（案）」をもとに、同委員会での議論に基づき訂正を加えたものである。
- (6) その他
 - 第131回大会（2005年度秋季大会）について
今回の大会に合わせて、広島大学の「育む・学ぶ」ことばの脳科学プロジェクト研究センターがCBL International Workshop on Cognitive/Neurological Basis for Linguistic Variationと題したサテライト・ワークショップを開催する。言語学会の公開シンポジウムの参加者2名がこのサテライト・ワークショップの予算で来日したことなどを考慮して、言語学会としても可能な範囲で協力するため、このワークショップの案内をプログラムに同封することにした。また、今回、発表件数が増え、大会プログラムが厚くなった。これを契機に、今後は角二型封筒を用いて、プログラムを二つ折りで発送することにした。
 - 機関別認証評価に係わる専門委員の選考結果について
標記の件について大学評価・学位授与機構より報告があり、2005年4月に推薦した4名の候補者について、平成17年度実施分の委員としては選考が見送られたとの通知があった。
 - 第133回大会（2006年度秋季大会）について
札幌学院大学に依頼し、開催を引き受けて貰った。時期は例年通り11月第3週の週末の予定である。

[審議事項]

- (1) 第5回言語学夏期講座について
 荻野綱男夏期講座小委員会委員長より夏期講座2006の予算案が提案され、承認された。なお、参加費を一般3万円、学生2万円として参加者250名の場合は550万円、200名の場合は450万円の収入が見込まれ、支出は400万円程度が想定される。
- (2) 危機言語シンポジウムについて
 「危機言語」小委員会が計画している公開シンポジウムについて、坂本比奈子氏より、「フィールドワークの光と影」(仮題)というタイトルで、2006年2月11日(土)に学生会館で行いたい、予算は50万円前後を考えているという説明があり、審議の結果了承された。なお、会員に送る案内については、選挙関係の郵便物に同封して送ることになった。
- (3) 大会実行委員長、大会実行委員に関する規定について
 標記の規定について、常任委員会から再提案があり審議の結果、原案通り可決された。[別記1]参照。
- (4) 個人情報保護法施行に係わる言語学会の対応について
 - ・「日本言語学会個人情報取扱規定(案)」
 標記の規定について、2005年度第1回委員会の議論を反映した形で、常任委員会から再提案があり、審議の結果、原案通り可決された。[別記2]参照。
 - ・「日本言語学会における個人情報の取扱方針について(案)」
 常任委員会によって提案された標記文書について、審議の結果、承認された。[別記3]参照。この文書は正式の規定や内規ではないので、とくに日付はいれないが、今後ホームページ等に掲載し、会員や入会希望者に周知を図ることになった。
 - ・「個人情報保護に関する遵守事項確認書(案)」
 言語学会と中西印刷との間で、標記の確認書を取り交わすことについて、審議の結果、原案通り可決された。[別記4]参照。なお、2005年度第1回の委員会における常任委員会提案になかった条項として、新たに、「第5条(損害の賠償)」の条項を設けた。[なお、委員会終了後11月21日付で、本確認書を中西印刷との間で取り交わした。]
- (5) 次期役員選挙の日程について
 次期役員選挙は、従来の選挙に準じて、2005年12月下旬に選挙人名簿発送、2006年1月上旬に同異議申立締切と選挙人名簿確定、1月下旬に投票用紙と会員名簿発送、2月中旬投票締切、2月下旬開票、という日程で行うことが提案され、承認された。なお、会員名簿については、

従来と同じく広告は掲載するが、個人情報保護の観点から、広告主に対する献本はせず、広告掲載頁のみを見本として渡すこととする。

(6) 『言語研究』の電子ジャーナル版について

吉田和彦編集委員長より、『言語研究』に応募・掲載される論文の質を高めるためには、海外への情報発信能力を向上させ、海外の雑誌との競争力を上げることが必要であり、そのためには、『言語研究』の電子ジャーナル化は不可欠であるとの意見が出された。ついで、上山あゆみ広報委員長から、電子ジャーナル化に当たっては科学技術振興機構が提供するJ-STAGEの利用と国立情報学研究所が提供するCiniiの利用という2つの可能性があるが、海外への情報発信ということを主眼に考えると、前者の利用の方が優れているという判断が示された。ついで会長より、「本委員会として、次期執行部に、『言語研究』の電子ジャーナル化の実現を強く勧める(2005年度第2回委員会決定)」という決議を行うことが提案され、審議の結果、可決された。

(7) その他

- ・井上和子氏より、学術会議の連携会員の選考について説明をするよう要望があった。これを承け、庄垣内正弘会長より、同会議会員の立場から、言語学会、関係諸学会の会員の中から適切に候補者を推薦していくつもりである、という説明があった。

なお、議事終了後、田村すゞ子氏より、大会開催に当たっては、身体の不自由な参加者等のためにタクシーの構内への乗り入れ許可や、大学等の門からの送迎、車いすの準備、階段上下に休憩用の椅子を置くといった配慮が望ましいという趣旨の発言があった。これを承け、今後の開催校にはこの点についての配慮を要望することとした。

〔別記1〕大会実行委員長について

1. 会長は、大会の開催に当たり、会場校の教職員の中から大会実行委員長1名を指名委嘱する。
2. 大会実行委員長は会場校を代表し、大会運営委員長と協力して大会の企画・運営に当たり、その実施に責任を持つ。
3. 大会実行委員長は、会場校の教職員その他の中から大会実行委員若干名を指名委嘱することができる。

(2005年11月19日委員会決定)

〔別記2〕 日本言語学会個人情報取扱規定

第1条（目的）

本取扱規定は本会が会の運営のために収集した会員の個人情報の取扱について規定する。

第2条（開示理由）

本会会員の個人情報は、会の運営ならびに会員相互の研究上の連絡および親睦のために必要な場合に限り必要な会員に開示する。開示をうけた会員は上記以外の目的のために個人情報を使用してはならない。

第3条（開示範囲）

会員は他の会員の氏名、専門分野、所属を知ることができる。また当該会員の同意があった場合には、その所属先所在地、同電話番号等、自宅住所、同電話番号等の連絡方法を第2条の規定のもとに知ることができる。

2 会長、その他の役員は、その職務に必要な限りにおいて、必要な範囲の会員の個人情報を第2条の規定のもとに知ることができる。

第4条（名簿の発行と取扱）

本会は、第2条ならびに第3条第1項の規定にもとづき会員名簿を発行し、会員に配布する。これは役員選挙を含む会の運営並びに会員相互の研究上の連絡、親睦のために作成し配布するものであり、会員の氏名、専門分野、所属以外の項目の掲載については、当該会員の意志に従うものとする。

第5条（守秘義務）

会長、その他の役員は第3条の第2項にもとづいて知り得た会員の個人情報を、これを知る資格のない他の会員あるいは会員外に開示してはならない。

2 会長、その他の役員がその職を退いた時は、在職中に知り得た個人情報を速やかに破棄しなければならない。

第6条（第三者譲渡の禁止）

会員は第3条の規定にもとづいて開示を受けた個人情報を会員外に開示あるいは譲渡してはならない。

2 会員は第4条の規定にもとづいて配布された名簿を会員外に譲渡してはならない。また紛失等に充分注意しなければならない。

第7条（明示的開示）

会長、その他の役員ならびに小委員会委員長等の役職にある者の氏名と役職名は学会誌上、ならびに本会ホームページ等において開示される。

2 学会誌に掲載された論文については、氏名の他に所属先を開示する。

3 新入会員については、学会誌上等にその氏名、専門分野、所属を開示する。

4 会員の氏名、専門分野、所属に変更があった場合には、これを学会誌上等に掲載する。

第8条（個人情報文書等の保存）

本会会員の個人情報を記載した文書等の保存期間は、別に「文書管理台帳」に定める。退会会員の個人情報は基本電子データから削除する。ただし、事務管理上必要な場合は、「文書管理台帳」に定めた期間、これを保持することができる。

第9条（例外）

以上の規定にかかわらず、公共の利益・会員の生命の保護のために必要な場合、および法令にもとづく場合には、第三者に会員の個人情報を開示することができる。

2 各種推薦事務等のために特定の会員から提供を受けた情報についても、本規定の精神にもとづいて取り扱う。

(2005年11月19日委員会決定)

〔別記3〕 日本言語学会における個人情報の取扱方針について

2005年4月より「個人情報の保護に関する法律」が施行されました。これについて日本言語学会は以下のように考え、対応します。

- 日本言語学会は、個人情報の保護に関する法律にもとづき政令によって定められた個人情報取扱事業者ではありませんが、社会における個人情報の保護を重視し、この法の精神に随って会員の個人情報を取扱います。
- 日本言語学会への入会に際して提出していただいた個人情報は、本会が定める「日本言語学会個人情報取扱規定」にもとづいて責任をもって管理し、会の運営ならびに会員相互の研究上の連絡および親睦のために必要な範囲内で使用させていただきます。
- 書店などで販売される学会誌に、新入会員の氏名、専門分野、所属を掲載します。またすでに会員である方についても、これらの項目に変更があった場合はこれを掲載します。また会員に配布される会員名簿に、氏名、専門分野、所属を掲載します。その際、それぞれの会員の同意のもとにその所属先所在地、同電話番号等、自宅住所、同電話番号等を掲載します。また、会の運営に必要な範囲で、本会の会長その他の役員、役職者に会員の個人情報を開示することがあります。
- 本会は、協力会社に一部事務を委託しており、その業務に必要な個人情報を預託することがあります。
- 本会が保有する各会員の個人情報について、会員本人が確認等のために開示を希望される場合、またその訂正や削除が必要な場合には、下記にご連絡ください。

【個人情報についての問合せ先】

〒 602-8048

京都市上京区下立売通小川東入

日本言語学会事務局

Tel. 075-415-3661 Fax. 075-415-3662

E-mail: lsj@nacos.com

〔別記 4〕 個人情報保護に関する遵守事項確認書

日本言語学会（以下甲という）と中西印刷株式会社（以下乙という）は、乙が甲に帰属する個人情報を取り扱うにあたり、個人情報保護に関して、乙が以下の内容を遵守することを確認する。

第一条（個人情報の保護）

乙は、甲から委託された諸業務を遂行するに当たり、甲に属する個人情報を、業務遂行のために知る必要のある従業員にのみ開示するものとし、これらの従業員が甲に属する個人情報を他の従業員・退職者あるいは第三者に漏洩、開示もしくは自ら使用することのないよう厳重に管理する。また、乙は甲に属する個人情報を適切な方法で管理し、個人情報への不正アクセス、個人情報の紛失・破壊・改竄・漏洩を予防する義務を持つ。

第二条（利用目的の範囲内での利用）

乙は、甲に属する個人情報を、甲の利用目的の範囲内でのみ使用する。甲の承諾なしに利用目的以外の目的で個人情報を使用することはしない。

第三条（個人情報の帰属）

乙は、甲の個人情報が甲に帰属することを確認し、一切の権利を主張しない。業務委託契約満了後は甲に属する個人情報を速やかに返却するものとし、乙に残ったデータは消去の上、記録媒体の一切を返還する。

第四条（法令の遵守）

乙は法令を遵守し、「個人情報の保護に関する法律」等に違反する行為は行わない。また個人情報について法令及びこの確認書に定められていない事項については、日本工業規格「個人情報保護に関するコンプライアンス・プログラムの要求事項」（JIS Q 15001）にもとづき取り扱う。

第五条（損害の賠償）

乙による業務遂行に際し、意図的であるか過失によるかを問わず、また第三者の故意によるものも含め、乙の管理下にある甲に属する個人情報の毀損、漏洩等により甲に損害が生じた場合には、乙はその損害を賠償するものとする。

2005年 月 日

- 甲 〒602-8048
京都市上京区下立売通小川東入ル
日本語学会
会長 庄垣内正弘
- 乙 〒602-8048
京都市上京区下立売通小川東入ル
中西印刷株式会社
代表取締役社長 中西隆太郎

2005年度第2回「危機言語」小委員会

日 時：2005年11月18日（金）14:00～16:45

場 所：広島大学教育学部第2会議室（管理棟2階）

出席者：奥田統己，梶 茂樹，呉人 恵，坂本比奈子，笹間史子，田村すゞ子，
千葉庄寿，宮岡伯人

〔議事と報告〕

- (1) 日本語学会（「危機言語」小委員会）主催公開シンポジウムについて今年度の成果公開として、以下のとおり公開シンポジウムを開催することを決定し、講演者などの人選をおこなうとともに、開催に向けた準備作業の具体的な検討をおこなった。

日 時：2006年2月11日（土）13:00～17:20

場 所：学士会館2階202号室

タイトル：「フィールドワークの光と影：今なぜ、危機言語に挑むのか？」

趣 旨：危機言語のフィールドワークの面白さと同時に難しさをフィールドで起こっている言語変容などの状況と絡ませ、一般に向けて紹介・啓蒙する。

内 容：講演、ポスターセッション、総合討論

基調報告：宮岡伯人（大阪学院大学）

講 演：宮本律子（秋田大学）、ハル・ケリー（麗澤大学）、呉人恵（富山大学）、奥田統己（札幌学院大学）

ポスターセッション：佐々木冠（札幌学院大学）、遠藤史（和歌山大学）、千田俊太郎（日本学術振興会）、永山ゆかり（北海道大学スラブ研究センター）

総合司会：梶茂樹（京都大学）

- (2) 第132回日本言語学会大会におけるワークショップについて
「フィールドから見えてくる言語の多様性 Part 2」として、「活格，能格，対格言語について」のワークショップをおこなう方向で検討することが合意された。これにともない，関係の専門家に発表依頼をおこなうことが確認された。また，ワークショップを継続的におこなっていくことが再確認され，今後のテーマのひとつとして，「危機言語の記述と教育」が提案された。

夏期講座小委員会

[活動報告]

- ・前回からは全員が集まる会議を開催しておらず，すべてメールングリストで相談を行った。相談内容は，夏期講座2006の担当講師決定，予算案作成，ホームページの準備などである。

第 131 回大会

期 日 2005 年 11 月 19 日 (土)・11 月 20 日 (日)

会 場 広島大学 (東広島キャンパス)

第 1 日 (11 月 19 日)

開会挨拶および公開特別企画

開会の辞

会長

開催校挨拶

牟田 泰三

公開特別企画 ことばを育む・脳を育てる

公開講演

「脳科学と教育」研究の現状と展望

—ことばとこころの健やかな発達のために—

司会 萩原 裕子

講師 小泉 英明

公開シンポジウム 脳からことばの謎に迫る

司会 酒井 弘

パネリスト

酒井 弘 「脳の働きからみた日本語文法」

今泉 敏 「発話意図理解の脳機構」

—言語と感情の相互作用—

Ina Bornkessel 「Broca's Region and the Linearisation of Prominence Hierarchies」

コメンテーター Nina Kazanina

小泉 政利

第 2 日 (11 月 20 日)

口頭発表・ポスター発表・ワークショップ

。A 会場

司会 郡司 隆男

(A1) 10:00～ 日本語の敬語文の統語構造

瀧田 健介

(A2) 10:35～ 複雑事象名詞句における尊敬化

Ivana Adrian

酒井 弘

(A3) 11:10～ Lexical Subclasses and/or Strata in Japanese

立石 浩一

司会 益岡 隆志

(A4) 12:40～ 取りたて詞「さえ」の習得について:

伊藤 益代

「前提」の解釈の点から

(A5) 13:15～ 日本語接続詞の構成性/非構成性

田村 早苗

—ソシテ・ソレデ・ダカラについて—

ワークショップ 14:00~16:00

東アジア諸語の文法化および文法カテゴリーに関する対照研究

ーヴォイスと空間表現を中心にー

企画者・司会者 生越 直樹

中国語諸方言の授与動詞の文法化について 木村 英樹

ー〈授与〉と〈受動〉の意味ネットワークに 楊 凱榮

関する方言類型論的考察

日本語・中国語・韓国語から見た受動文の種類 井上 優

生越 直樹

木村 英樹

鷺尾 龍一

移動動詞の越・中対照研究： ラマール・クリスティーン

直示方向のカテゴリー化と「着く」の 村上 雄太郎

文法化を中心に

◦ B会場

司会 生越 直樹

(B1) 10:00~ 諸県方言における「一型アクセント」の 佐藤 久美子
実現についてーフォーカスとの関わりに注目してー

(B2) 10:35~ 島原方言における音調の音声の実現と 松浦 年男
基底表示

(B3) 11:10~ 韓国語大邱方言におけるアクセント単位の 李 連珠
認定基準

司会 渋谷 勝己

(B4) 12:40~ ブルジャスキー語における外来語の 吉岡 乾
複数接辞について

(B5) 13:15~ 現代中国語類別詞のコンテキストにおける 橋本 永貢子
意味と機能について

◦ C会場

司会 上山あゆみ

(C1) 10:00~ The Distribution of Floating Quantifiers 牧 秀樹
in Modern Irish and Its Theoretical Implications (presented in English) Dónall P. Ó Baoill

(C2) 10:35~ A Small Clause Difference between English 松岡 幹就
and Japanese

(C3) 11:10~ A Derivational Approach to Association 星 浩司
with Focus in Japanese and Its Consequences 三好 暢博

- 司会 星 浩司
- (C4) 12:40~ The Semantic Differences between the to/into PP Resultative Predicates 松井 夏津紀
- (C5) 13:15~ 事象構造の合成と特質構造の働き
—前置詞の事象構造— 磯野 達也
- 司会 松本マスマ
- (C6) 14:00~ 日本語の擬情語心理動詞における時間性： 秋田 喜美
日英通常心理動詞との比較
- (C7) 14:35~ 移動様態動詞と共起する再帰代名詞と 平松 佳二郎
自他交替
- (C8) 15:10~ A Structural Analysis of Atelic Resultatives 玉井 尚彦
- 。D 会場
- 司会 樋口 康一
- (D1) 10:00~ 大塚保安語の数詞「一」に由来する 佐藤 暢治
gə について
- (D2) 10:35~ 満洲語文語の逆接表現 山崎 雅人
- (D3) 11:10~ 満洲語文献における語末の K と子音連続の 結城 佐織
前子音 K についての一報告
—「満文金瓶梅」を中心に—
- 司会 辻 星児
- (D4) 12:40~ ヤクート語の副動詞形と人称接辞に関する 松本 亮
—考察—類型論的観点から—
- (D5) 13:15~ チャック語とマルマ語の声調対応について 藤原 敬介
- 。E 会場
- 司会 広瀬 友紀
- (E1) 10:00~ 北京・上海・ソウル方言話者の 福岡 昌子
日本語破裂音の範疇知覚について
- (E2) 10:35~ Does Ambiguity Trigger All Compatible Sound Representations?
(presented in English) Mark Scott
- (E3) 11:10~ 統語解析器の再分析における処理の 大石 衡聴
選好性について 安永 大地
坂本 勉
- 司会 坂本 勉
- (E4) 12:40~ 事象関連 fMRI を用いた素性照合 丸山 啓
(feature checking) 時の脳活動の観察 祐伯 敦史

- | | | | |
|--------|--------|--|-------------------------|
| | | | 藤原 崇 |
| | | | 中井 悟 |
| (E5) | 13:15～ | 言語産出からみたメンタル・レキシコンの
表象—日本人英語学習者を対象とした
統語的プライミング実験による検討— | 横川 博一
藪内 智 |
| | 司会 | 小泉 政利 | |
| (E6) | 14:00～ | 目的語名詞句の解析における格助詞の影響 | 村岡 論
坂本 勉 |
| (E7) | 14:35～ | 日本語の文処理における動詞の影響
—統語的・語彙的プライミングを用いて— | 田中 潤一
玉岡 賀津雄
酒井 弘 |
| (E8) | 15:10～ | 文理解における動詞情報の即時性に関する
考察—中国語の空主語文を通して— | 翟 勇
坂本 勉 |
| ◦ F 会場 | | | |
| | 司会 | 田端 敏幸 | |
| (F1) | 10:00～ | デンマーク語の母音量と音節構造 | 三村 竜之 |
| (F2) | 10:35～ | The Phonological Optimization
of Nicknames in Japanese: Why kids don't
sing "Sachichan wa ne" (presented in English) | Ralph L. Rose |
| (F3) | 11:10～ | 世代間によるアクセント分布の相違と
原語の影響について | 竹村 亜紀子 |
| | 司会 | 久保 智之 | |
| (F4) | 12:40～ | 光州方言の長母音とアクセント | 李 文淑 |
| (F5) | 13:15～ | 韓国語江原道方言のアクセント | 孫 在賢 |

ワークショップ 14:00～16:00

Voicing Categories

企画者・司会者 那須川訓也

Laryngeal-Oral Coarticulation: A Case Study 中村 光宏

A Cross-linguistic Study on Voiced-Voiceless Categories

清水 克正

The Phonology of Voicing Categories: A Comparative Study

那須川 訓也

Phillip Backley

◦ G 会場

- 司会 井上 優
- (G1) 10:00～ 「アスペクト」から「ヴォイス」へ 黒田 享
ードイツ語接頭辞の機能変化ー
- (G2) 10:35～ ハンガリー語における telicity とその形式 江口 清子
- (G3) 11:10～ フィンランド語の動名詞の統語論的・ 千葉 庄寿
語用論的機能
- 司会 塚本 秀樹
- (G4) 12:40～ セデック語 CV 中立形の理由を表す用法 月田 尚美
- (G5) 13:15～ サオ語の動詞について 新居田 純野
- 司会 江口 正
- (G6) 14:00～ Can Hamblin's Alternative 伊藤 さとみ
Semantics Replace Unselective Binding?
- (G7) 14:35～ 係助詞の附加位置 澤田 深雪
- (G8) 15:10～ 日本語の右方転移構文と左方移動分析 黒木 暁人

◦ H 会場 (K108 教室)

- 司会 梶 茂樹
- (H1) 10:00～ アイヌ語の充当接頭辞 Anna Bugaeva
(相互態・共同態の派生を中心に)
- (H2) 10:35～ ベンデ語 (バントゥ, F.12) の指示詞, 阿部 優子
-o 称 (中称) を中心に
- (H3) 11:10～ 聖書ヘブライ語の動詞組織における 高橋 洋成
Biradicalism
- 司会 町田 健
- (H4) 12:40～ Le fait que の分布と法の選択 守田 貴弘
- (H5) 13:15～ フランス語の属格をともなう定名詞句の 小田 涼
唯一性について
- 司会 三藤 博
- (H6) 14:00～ The Position of Subjects in Japanese: 内芝 慎也
Evidence from Scope Freezing
- (H7) 14:35～ 等位接続構文の逆スコープ解釈 戸次 大介
- (H8) 15:10～ 凍結作用域と題述関係 外池 滋生
田口 和希

ポスター発表 11:40~13:40

◦ I 会場 (K109 教室)

Influence of Word Category and Morphological Complexity on Lexical Processing in the Human Brain (presented in English)	Satoru Yokoyama Tadao Miyamoto Jorge Riera Jungho Kim Yuko Akitsuki Kazuki Iwata Kei Yoshimoto Kaoru Horie Shigeru Sato Ryuta Kawashima
Online Processing of Allomorphic Alternation in Compound Words (presented in English)	Hiromu Sakai Megumi Yoshimura Jun-Ichi Tanaka Robert Fiorentino Nina Kazanina
「そのもの」の用法と意味 助数詞と名詞の照合処理は意味的か 文法的か—事象関連電位を用いた研究—	茂木 俊 伸 酒 井 由 美 岩 田 一 樹 Jorge Riera 万 小 紅 横 山 悟 下 田 由 輝 川 島 隆 太 吉 本 啓 小 泉 政 利

日本語学会 2006～2008 年度役員選挙の結果について

2006～2008 年度役員（会長，編集委員長，会計監査委員，委員）の選挙を，
会則・選挙規則および選挙細則に基づいて，以下の日程で行った。

2005 年 12 月 26 日（月）	選挙人名簿発送
2006 年 1 月 23 日（月）	投票用紙発送
2006 年 2 月 13 日（月）	投票締切（当日消印有効）

開票は下記の選挙管理委員会で行われた。

日 時：	2006 年 2 月 20 日（月）12:00～18:00
場 所：	京都大学大学院文学研究科会議室
出席者：	庄垣内正弘（選挙管理委員長），影山太郎，窪菌晴夫，郡司隆男， 野田尚史，山梨正明，吉田豊
オブザーバー：	佐藤昭裕（事務局長），森若葉（事務局長補佐）

開票の結果は以下の通り

投票総数	192	うち有効投票数	187
		無効	5

1. 会長選挙

投票数	182	うち有効投票数	174
		白 票	7
		無 効（白票を除く）	1
当 選	上野善道	53 票	
次 点	角田太作	11 票	
次々点	宮岡伯人	9 票	

2. 編集委員長選挙

投票数	182	うち有効投票数	174
		白 票	5
		無 効（白票を除く）	3
当 選	影山太郎	15 票	
次 点	郡司隆男	13 票	
次々点	山梨正明	12 票	

3. 会計監査委員選挙

投票数	352（176×2）	うち有効投票数	299
		白 票	34
		無 効（白票を除く）	19

当 選	佐藤昭裕	19 票
当 選	吉田和彦	16 票
次 点	林 徹	14 票
次々点	金水 敏	8 票

4. 委員選挙

選挙細則に基づき、当選者のみを各地区別に五十音順に掲げる。

[北海道] (定数 2 名) 加藤重広, 津曲敏郎

[東 北] (定数 3 名) 小泉政利, 福地 肇, 堀江 薫

[関 東] (定数 29 名) 井出祥子, 井上史雄, 井上 優, 今西典子, 大津由紀雄, 荻野綱男, 生越直樹, 尾上圭介, 風間伸次郎, 菊地康人, 熊本 裕, 坂原 茂, 坂本比奈子, 城生佰太郎, 杉浦滋子, 杉戸清樹, 砂川有里子, 高見健一, 角田太作, 外池滋生, 中川 裕 (千葉大学), 長嶋善郎, 西山佑司, 林 徹, 早津恵美子, 日比谷潤子, 福井直樹, 峰岸真琴, 鷺尾龍一

[中 部] (定数 9 名) 呉人 恵, 小泉 保, 斎藤 衛, 澤田治美, 清水克正, 柘植洋一, 藤本幸夫, 町田 健, 油谷幸利

[近 畿] (定数 17 名) 影山太郎, 梶 茂樹, 金水 敏, 工藤真由美, 窪 蘭晴夫, 郡司隆男, 田窪行則, 田野村忠温, 野田尚史, 藤代 節, 益岡隆志, 三原健一, 宮岡伯人, 藪 司郎, 山梨正明, 吉田 豊

[中国・四国] (定数 5 名) 酒井 弘, 玉岡賀津雄, 辻 星児, 樋口康一, 渡辺 己

[九州・沖縄] (定数 4 名) 上山あゆみ, 久保智之, 坂本 勉, 湯川恭敏

以上 68 名

なお、上野善道 (関東地区), 佐藤昭裕 (近畿地区), 吉田和彦 (近畿地区) の 3 氏は委員当選に足る票数を得たが、それぞれ会長あるいは会計監査委員に就任のため、兼任禁止規定により、委員とはならない。これに伴い当該地区で繰り上げ当選が生じた。また、近畿地区で辞退者が 1 名あったが、選挙規則により補充しない。

◇退 会

国内個人会員	29名
在外個人会員	2名
国内団体会員	4件



◇ 本誌は、独立行政法人日本学術振興会平成17年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付を得て刊行されたものである。